

駒澤大学名誉教授

佐々木宏幹

追憶のイギリス

仏教企画通信

発行日 | 令和元年9月1日

57号

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0113
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5
Tel.042-703-8641
Fax.042-783-0989

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

年は取るものではない

「年は取るものではないなあ」と、私の大先輩である大先輩は事あるごとに口にされていた。七〇歳前後の頃であつたかと思う。私は四〇歳前後であつたか。私と顔を合わすたびに同じ物言いが繰り返されるので、つい怪訝に思うこともあつた。

あれから四〇数年の星霜を経て最近の私は、先輩がいつも口になされていたことがよく分かるような気がするようになった。

挙げれば限りがないが、物忘れが多くなる、気分がよくない、疲れやすい、よく眠れない、動きたくないなど、その例である。

先輩がかつて「年は取るものではない」と語られたその意味内容は、私が右に記したことと大方重なるのではあるまいか。

もつとも、最近では七〇歳八〇歳いや百歳近くになつても元気で活躍している人も少なくない。

織田信長が駿河の今川義元

を討つために出陣する際に、唄い舞つたとされる「人間五十年、下天のうちを比べれば、夢幻の如くなり」(幸若舞)は、当時の寿命がほぼ五〇年であつたことを示しているだろう。現代はまさに高齢化時代なのである。

しかし現代は高齢化時代であると言つても、人が死ななくなつた訳ではない。「生老病死」の大原則は不変である。別の語を用いれば「無常」つまり「万象ごとごとく生滅してとどまることなし」である。

よく知られている古典を引けば「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖と、又かくのごとし」(『方丈記』)である。

高齢化時代をいかに謳歌しても、所詮生命は久しくとどまることなど不可能なのだ。『方丈記』の無常感覚は、「無常」を最重視する仏教を受け容れ、ほとんどの人が仏教徒であるこの国の人々に特有の感覚または思想なのだろうか。

いやそうではないようだ。イギリスはエリザベス朝(一五五八―一六〇三年)の文学を代表するシェイクスピアの劇作「マクベス」のなかにもまさに「無常観」とも言える台詞がでてくる。

スコットランドの武将として功名をあげたマクベスは、三人の魔女にそのかさされて、彼が仕えていたダンカン王を弑逆し、みずから王位に就くが、後に王の息子らによって

みずからも殺害されるという内容。

マクベスの最後の言葉は、「消えろ、消えろ、束の間の灯火! 人生はたかが歩く影、哀れな役者だ。出場のあいだは舞台の上で大見得を切つても、袖へ入れればそれきりだ。白痴のしゃべる物語」(松岡和子訳)。

正直に言うと、私はこの松岡訳よりも昔の坪内逍遙訳の方が好きだ。

それは、「消えろ、消えろ、束の間の灯火。人生は畢竟歩いて影たるに過ぎん。ただ舞台の上で、ギックリバツタリをやつて、やがては噂もされなくなる惨めな俳優だ。馬鹿が話す話だ」というものである。

このマクベスの言葉は先に引用した『方丈記』冒頭の文意の意とどこか重なっているように思うのだが、いかがであろうか。

そうではないとすれば、私の年のせいであり、「年は取るものではないなあ」と小さく囁くほかない。

かつて舞台俳優として活躍した芥川比呂志氏が「マクベス」を演じたのをテレビで観たことがある。そのときに氏が語つた「消えろ、消えろ、束の間の灯火」が今も私の耳に残つて離れない。

一九七五年頃のイギリス

私は大学の卒業論文でもシェイクスピアの「マクベス」と「ハムレット」を取り上げ、

そのなかで既述の内容を引用している。両作品ともその根この部分に「無常感覚」を蔵していると感じていたのである。

私が大学で親しくしていた先生に、Y・Tという東大で中野好夫教授に附いてアメリカ文学を学んだ方がいた。明るく豪快で、しかも神経の細かい人であつた。

Y・T先生はイギリス文学の面白さや奥深さを一杯やりながら語るのが常だつた。先生からエミリー・ブロンテの『嵐が丘』を紹介されたので、すぐ買って読んだことがある。この小説の舞台は、イングランドのヨークシャーである。ぜひそこへ行つてみたいと思つた。

この私の願いが実現したのは一九七五年の八月であつた。このとき、イングランド北西部ランカシアの旧州都ランカスターにあるランカスター大学において、第一三回国際宗教学宗教学史会議が開かれ、各国から数多くの宗教学者が参集し、八日間わたつて研究発表が行われた。

私も「日本におけるシャーマニックな加入儀礼の三類型

について」と題して発表した。この学会にはランカスター大学より名誉学位を受けるために、先年逝去された三笠宮崇仁さまご夫妻が出席されており、私の発表の際にはお二人で聴講して下さつた。これが縁で私は東京にあつた宮さまの研究所に招かれ発表をし、昼食を共にしたことがある。

思わず筆が滑つてしまつたが、『嵐が丘』に戻ろう。この丘はランカスター東部にある広大な丘陵地帯で緑豊かな草原が見果てなく重畳(幾重にも重なつて)と拡がつていた。

イギリスという小国にもこんな緑の大地があるのかと、妙に感心したものである。エミリー・ブロンテはこの広大な緑の大地に住んで、あの大作をものしたのかと感傷的にな





境内が清涼な空気に包まれたケーナ(縦笛)ライブ(岩川光)

秋田県男鹿市
海蔵山大龍寺

開かれた お寺を目指して

ここからは少し古い現在のイギリス人論として読み続けられている、池田潔氏の『自由と規律』イギリス

池田潔著 『自由と規律』ほか

ス人の学校生活』岩波新書、初版一九四八、一〇四版二〇一三)に学ぼう。池田氏は一九〇三年生れで一九九〇年に逝去された英文学・英語学者で、慶應義塾大学の教授であ

「まえがき」には「中学を終らずにイギリスに行き、リース・スクールに三年、ケンブリッジ大学に五年、それからドイツに渡ってハイデルベルク大学に三年を送った」とあるから、当時としてはエリート中のエリートであったと言える。氏が入学したリース・スクールはパブリック・スクールの一つであり、一般に寄宿制の私立学校で、大学進学や公務員を目指す生徒を教育する機関である。私立なのに「パブリック」と呼ぶのは、いかにもイギリス的ではある。

この学校の生徒は年齢一、二、三歳から一八、九歳、在学期間は三年ないし六年であるという。わが国の中・高校に相当するだろう。パブリック・スクールの生徒は、イギリス支配階級の子弟であるとされるが、事実卒業生の大部分が指導的地位にあつて活動しているという。パブリック・スクールの主なものはイングランドに三二校、スコットランドに四校あり、これらを卒業した者はオックスフォード大学またはケンブリッジ大学、サンダース陸軍士官学校またはダートマス海軍兵学校に進むとされ

れ、責任や規律の確乎とした観念が養成され、また「他人の釜の飯を食う」という言句に表現される自制と耐乏の精神が養われるところなのである。その生活は鐘に依りて鐘に暮れる。寸秒の狂いもなく次から次へと劇しい日課に追いついて万事の動作に鈍い者にとつては正に「恨の鐘」だったという。パブリック・スクールには礼拝堂があり、毎日朝夕必ず二度の礼拝、日曜日にはさらに午前と午後大礼拝があつて、教職員と校内に住む者が参列することになっていた。司祭は校長その他僧籍にある教師のこともあり、外来の人のときもある。関東大震災後のある日曜日には、日本に在住したことのある宣教師が招かれて懇話法要が営まれ、その喜捨金は日本に送られた。また校長は新学期が始まる

と池田氏の部屋まで見舞いに訪ねていき、特別礼拝のときにも池田氏の家族の安全にたいし、会衆(仏教の法会では、えしゅ)と共に感謝の祈禱を捧げてくれたという。池田氏は「想い出を書き綴れば限りがないが、リースの校長はそういう人だった」と述べている。私たちが学ぶべきイギリス人は日本人に似たところがあるなどと言え、直ちに「とんでもない」と猛反発を食らうだろう。しかし、

「個々の私を捨てて全体の共同目的の貫徹に奉仕する精神を養う」ための手段だからである。パブリック・スクールは全寮制であり、入学した者は一日二十四時間にわたる共同生活により、教師と学生、または学生相互の緊密な接触によって常に人格陶冶の機会が生

る。池田氏が学んだリース・スクールについて少し詳しく見てみよう。この学校はケンブリッジの西南、静かな町はずれにある。巨大な樺の並木に区切られた一面の敷地は九万坪、その三分の二がこの国特有の四季常緑の芝生に蔽われた競技場となっており、二〇名の全学生が毎日運動競技に勤しむ。春のクリケット、秋のラグビー、冬のホッケーなど季節に応じて対抗競技が行われるのである。運動競技が重視されるのは、「個々の私を捨てて全体の共同目的の貫徹に奉仕する精神を養う」ための手段だからである。

「秋」では「今年も天気続きの年だった。不愉快な空模様

四季についての感覚には彼れに共通するものがあると感じさせる文学作品もある。ジョージ・ギッシングの『ヘンリー・ライクロフトの私記』などその例と言えよう。この作品は、若い日に作家を目指して極端な貧乏生活を経験する男の生活を扱ったものであるが、大都市ロンドンにおける生活描写が素晴らしい。私が大学二年生のときの英語のテキストがこの作品であったこともあって、何とも懐かしいのである。ライクロフトが住んでいたのはトナム・コート・ロードであり、この通りには貧乏作家たちが多数住んでいたとある。私は一九七五年八月にイギリスに行ったことは先に記したが、このとき私はロンドンのこの通りを訪ねてみた。この通りは大英博物館のすぐ隣にあつたが、両側には豪壮な建物が立ち並んでおり、ライクロフトが住んでいたような荒家はどこにもなかった。それもそのはず、ギッシングがこの本を著したのは一九〇三年であり、爾来七十二年も経っていたのである。私は世の「無常」を感じざるを得なかった。

とてほとんどなく、くる月もくる月もいつのまにか過ぎていった。いつ七月が八月になったのか、八月が九月になったのか、ほとんど私には見当もつかなかった。野原の小道が秋の花々で黄色くふち取られているのを見なかったならば、今でも夏だと私は思うかもしれない」と述べている。そして最終章は「私は「終わり」という最後の言葉を吐くとき、やがて来たるべき安息を、ただ心中満足の念のみをもって喜び迎えることができたと思うのである」と結ぶ。

また、お寺とともに歩むしつかりとした取り組みは、時間がかかっても実を結んできます。例えば同じ男鹿半島の北浦というところで、アジサイ寺で有名な雲昌寺さん(曹洞宗)があります。そここの地域は漁業が衰退していつ、昔の活気が失われつつありました。地域に活気を取り戻そうと雲昌寺さんでは、境内のアジサイを時間をかけて増やし、全てをアジサイ一色に変えました。時季になりますと何万人もの方々が、アジサイを観に来られています。境内のほぼすべてがアジサイで埋め尽くされる風景は圧巻です。大切なのは、そこに「お寺がある」ことです。公園ではなく、「アジサイ寺」であることで、お寺とアジサイの魅力の両方が活かされ合っていると思えます。

小野崎 今、地方・都市部を問わずに「寺離れ」が叫ばれています。特に地方の寺院にとっては、お寺の存在を喫緊の課題として抱えているところも多いと思います。こちらの男鹿市も、秋田県の地方都市ですが、お寺を拝見していただきますと、雨天(注：令和元年五月二十八日)にも関わらず、お寺にはお参りの方が結構いらつしやっています。昔と今とは、参拝の方の変化はございます。住職 今から三十年ほど前に建物の拡張を行った頃は団体の参拝客が多かったです。今は個人の方ですね。例えばヨガですとか、御朱印を集めたり、他にもいろいろなイベントにきてくださいます。イベントにもいくつか種類がありまして、音楽イベントもあるし、マーケットイベントもありま

小野崎 現在にの形に定着するまでに試行錯誤がございました。住職 そうですね。長い時間と労力がかかりましたが、私を取り組み始めた最初の頃、外国人の友人のご縁を戴いたのは大きかったと思います。海外から外国語の指導に来られていたALT(外国語指導助手)の方々が秋田県内にも沢山いらつしやいました。任期中に日本を堪能したいというお気持ちを強く持つていて、活発に活動していたのです。お寺に対して「こういうことができる」と、多くのアイ

小野崎 奥様の三浦グラッチェンさん 右：三浦賢翁住職

小野崎 世代を問わず、お寺に行ってみたい、入ってみ



ある種の「諦念」の表白のようでもあり、私がイギリス人は日本人に似ていると感じる一例である。私は一九七五年八月にイギリスに行ったとき、是非ともケンブリッジ大学とオックスフォード大学を訪ねたいと思つていて、ケンブリッジの方は思いがなかった。短い時間ではあったが、キングスカレッジの礼拝堂を仰ぎ見ることができた。

卒業生の池田氏はかく記していた。「鏡のようなカム川に倒影を投げて春浅い灰色の空に聳えているキングスカレッジの礼拝堂を仰いだ時のあの深い感動は人間の一生にもそうたびたびあるものではないと思う」と。まったく同感である。あれから四十三年の歳月が経ち、私は最晩年の日々を生きている。今の私にとってイギリスはまさに「追憶のイギリス」であると言えようか。

とてほとんどなく、くる月もくる月もいつのまにか過ぎていった。いつ七月が八月になったのか、八月が九月になったのか、ほとんど私には見当もつかなかった。野原の小道が秋の花々で黄色くふち取られているのを見なかったならば、今でも夏だと私は思うかもしれない」と述べている。そして最終章は「私は「終わり」という最後の言葉を吐くとき、やがて来たるべき安息を、ただ心中満足の念のみをもって喜び迎えることができたと思うのである」と結ぶ。



（真言）を受容していましたが、大乘仏教になって修行者が心の散乱を防いで集中し、教法や教理を記憶し保持するため、経文を圧縮、あるいは抜粋して、これを呪文の一種としてダーラニーと呼び、重視するようになりました。新たな教えを宣教する大乘仏教の

説法者には、この力が必要だったわけですね。実際、般若経・法華経・大宝積経など、多くの大乘経典に陀羅尼品という章が設けられていることにも、その当時の盛行した様子がうかがえます。密教の時代になるとインドの宗教に影響され、言葉に内

在する神秘力に期待する呪文的な性格をさらに強めるようになりまして。そして、同じく呪文としては真言（マントラ）、明呪（マイディア）、さらには心真言（フリダヤ・マントラ）といった様々な形態の呪文が広まりました。それらは言葉によって存在を喚起し、対象をコントロールするといふもので、これらの本質は同じです。陀羅尼はそれらのうちでは比較的長いものを指します。たとえば、まず「ノウマク サマンダボダナウ」（普く諸仏に帰依し奉る）などという帰敬の言葉に始まり、諸々の仏・菩薩、神などに対する多くの通称を連ねて祈願し、最後にソワカ（幸いあれ）で結ぶ形式をとる場合が多く見られます。この祈願の形態を持つ経文類が陀羅尼経典というわけ

です。この陀羅尼の中で、わが国で最も読誦されるのが「大悲心陀羅尼」です。そこで本誌では、最初にこの「大悲心陀羅尼」を取り上げたいと思います。

大悲心陀羅尼のスケッチ

曹洞宗で読誦される「大悲心陀羅尼」は、正式名は「千手



座敷を利用した小さなライブラリー&カフェスペース

SNSを通じてお寺と郷土の魅力発信

小野崎 奥様の新たな視点やアイデアも活かされていますね。住職 そうですね。さきほどの小さなギャラリーにしても自分とはまた違った視点や感

覚を持つています。写真もいい感じのものを撮ってくれています。奥様 写真を撮ってソーシャルメディアで紹介すると、更に広がると思います。写真はInstagramの材料になっています。Instagramは写真が中心になっているので、すごく楽しめますね。それと、フェイスブックも使います。小野崎 SNSの効果は大きいですね。地域による便利・不便は関係なく、世界中つながっています。奥様 見た方がすぐこちらにも連絡することができそうです。「今日行きますか」と、いらっしやいますか」と。英語と日本語のどちらでもいいので海外からも連絡がきます。お寺や仏教の世界に入る敷居が低くなりますね。

この間は、私の同級生がアメリカから来てくれました。遠いので、来るにはちよつと不便じゃない？ でも帰る時には、ここが一番よかったよと言ってくれて。やっぱり来てもらってよかったです。京都・奈良は外国の方にもすごく有名です。もちろん行ったほうがいいけど、東北とか田舎の風景をみて、実際に体験できればすごくいいことじゃないかな。同級生もここでリラックスして、二泊か三泊ぐらいしたら、すごくリフレッシュして、とてもよかったです。

小野崎 今回の取材を通じて、これからの地方寺院と地方における僧侶、そして寺院の皆さんにとつて大きなヒントを与えてくれるご寺院と感じました。これからますますのご発展をお祈りします。今日は良いお話を聞かせて戴きました。ありがとうございます。

なものをじっくりゆつくりと味わって戴く感じですよ。お寺が心のよりどころになっていけるように

小野崎 最後にこれからに向けてのお考えをお聞かせください。住職 今、マインドフルネスやヨガ、写仏、写経といろいろな企画で、皆さまには来て戴いているのですが、日常生活の中で、もっと仏教のいいところを活かして戴けるように、気張らずに取り入れて戴ける、時代に合わせた工夫をしていきたいです。そういう意味では、外国の方が受け入れられるものであれば、今の日本の若い方にも受け入れて戴けて、一緒にアイデアを出しながらやっていける期待もございいます。



東洋大学文学部教授 渡辺章悟

曹洞宗で唱えられるダラニ経典 大悲心陀羅尼

第一回

漢字に音訳されたままで伝えられたからです。また、陀羅尼類のサンスクリット原典も現存しているものはわずかであることもその理由です。しかし、近年幾つかの原典を始め、多くの研究書や参考文献が刊行されるようになり、陀羅尼類についての知識も広がりました。それに伴い、僧侶ばかりでなく、一般の方も法要等で聞く経文類の意味内容を知りたいと思う方が増えてきているのでは

ないかと思えます。そこでこれから何回かにわたって、宗門で唱えられている陀羅尼経典類について、判りやすく翻訳を添えて解説してみようと思います。

日本仏教はインドの経文を直接漢字に当てて音訳した陀羅尼と称される一群の経典を讀誦していますが、それは主に真言宗の伝統を継承したもので、禅宗に共通するものといえます。そればかりか、これらの陀羅尼経典類は東アジアの漢訳文化圏で共通して唱えられ、その中でも大悲心陀羅尼、消災妙吉祥陀羅尼、仏頂尊勝陀羅尼などが日本の禅門でも重視されてきました。また、「般若心経」や「甘露門」に含まれる真言なども讀誦されているように、真言陀羅尼類は讀誦経典の中でも重要な位置を占めているのです。陀羅尼（ダラニ）とは、サンスクリット語「ダーラニー」の音写で、陀羅尼とも書きます。有名な玄奘三蔵などは、これを「總持」と意識しています。まさにその名を冠しているのです。

千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼経（通称「千手経」という長いタイトル）の経文に掲載される陀羅尼は、曹洞宗でこの陀羅尼は、「朝課仏殿諷経、朝課開山歴住諷経、略朝課万靈諷経、竈公諷経、晚課諷経、鎮守諷経等」で讀誦する（曹洞宗日課勤行聖典）とされるように、朝課に仏殿や開山堂などで祖師方へ、あるいは晩課に諷誦されるばかりか、「祈祷、先亡回向（せんもうえこう）、何れにも誦す」（曹洞宗日課経大全）とあるように、在家の法要などでも日常的に唱えられるお経です。したがって檀信徒の方でも、大悲心陀羅尼というタイトルをご存じない方でも「ナンカラタンノトラヤヤー」という調子の良い響きの経文を聞いたことがある方は多いと思います。なお、臨済宗や黄檗宗では、正式には「大悲心陀羅尼」ではなく「大悲心陀羅尼」といいます。

彼は唐の高宋朝（六五三〜六八三）に渡来し、本経の他に、『千手千眼観世音菩薩治病合業経』（大正蔵二十卷一〇五九番）を訳しました。また、智昇の『開元釈教録』には、智通との共訳とされるが、これは現存していません。『千手経』（一〇六〇番）は千手観音に関する文献群の一つですが、これらには大正蔵の第二〇卷（一〇五六〜一〇六八番）に同本異訳や別本を含めて実に十五部の経典が収録されています。このなかでこの陀羅尼が後世に最も影響を与えた経典です。なお、上述した同じ訳者の『千手千眼観世音菩薩治病合業経』（一〇五九番）は、『千手経』の付属儀軌とされます。

文献の説明

- (1) 『大般若と理趣のすべて』 漢水社 1995年
 - (2) 『大乘経典解説事典』北辰堂 共編著 1997年
 - (3) 『大智度論の物語』(三)、レグルス文庫232、第三文明社 2001年
 - (4) 『般若法華経索引』全11巻、仏之世界社（共編著）
 - (5) 『金剛般若経の研究』山喜房佛書林 2009年
 - (6) 『金剛般若経の梵語資料集成』山喜房佛書林 2009年
 - (7) 『般若心経』テキスト・思想・文化』大法輪閣 2009年
 - (8) 『ブツダを知る事典』佼成出版社 共編著 2011年
 - (9) 『経解き般若心経』ノンブル社 2012年
 - (10) 『般若経大全』春秋社 共編著 2015年
 - (11) 『般若心経註釈集成（インド）』チベット編』起心書房 共編著 2016年
 - (12) 『般若心経註釈集成（中国）』日本編』起心書房 共編著 2018年
- 所属学会
日本印度学仏教学会 理事、仏教思想学会 理事、日本宗教学会（評議員）、日本チベット学会（委員）、東方学会 地区委員、日本仏教学会 会員 等。

えまずと、お寺の環境というのは、最高にファンタジー遊びができる場所かもしれない。昼間だけじゃなくて夜も含めて、最高のファンタジー空間だと思えますよ。お寺さんはすごく豊かな社会資源を持っていらつしやいます。藤木 そうですね。持っています。各お寺は、そういう中で自分のところは何ができるか、どういう資源を持っているかをお考え載いて、ぜひ工夫して載きたいです。

増山 日本小児科医学会という小児科のお医者さんたちが、親が子どもにスマホを渡して、小さいうちからスマホで遊んでいると、これはちよつと心配だということで、お医者さんたちと、子どもの遊びを進める児童館の方々と一緒に、「遊びは子どもの主食です」というキーワードで、子ども遊びを進める活動を展開しています。それと同じようにお寺さんと何か遊びのグループがコラボをして新しい問題提起をする、そういうことがあってもいいと思うのです。

藤木 いいですね。

増山 最近AI(人工知能)に関する問題も出てきています。これまで想像すらしえなかった社会生活の変化に、親自身も直面しています。例えば子どもたちとパソコンやスマートフォンとの関わりをどうとらえるかというのもありますね。かつての伝統的な子育てが崩れて、その中でどうしていくのかということも迷っている間に、環境がどんどん新しく変わっていくので、そ

みを創り出していくのが、子どもの世界です。楽しめない子がいても、だんだん楽しめるようにしていく。それがすごく大切だと思います。こういうところは、一見混沌としているんだけど、子どもの成長にとって、実はすごく大切な場所です。

藤木 そうですね。そう思います。私の小さい頃は監視もされていませんし、自由に遊ばせてもらっていました。

増山 昔は、住んでいる周囲の環境に、竹藪とか雑草地が

いて、生活の中の混沌とした部分が消えていきました。藤木 混沌とした場所が必要ですね。

増山 はい。それがなくて、全部線を引いて分けていくというのは、子どもの育ちにとってにはマイナスです。人間は、人間性やお寺さんがあるんじゃないでしょうか。

藤木 そうですね。これからのお寺は寺檀関係に固定した

いって、生活の中の混沌とした部分が消えていきました。藤木 混沌とした場所が必要ですね。

増山 はい。それがなくて、全部線を引いて分けていくというのは、子どもの育ちにとってにはマイナスです。人間は、人間性やお寺さんがあるんじゃないでしょうか。

藤木 そうですね。これからのお寺は寺檀関係に固定した



福井県越前町 たいら保育園の子どもたち

らも振り回されます。かわいけれど、迷惑といえは迷惑でもあったりします。

その日、車が汚れていたのですが、庭先できれいに洗車しました。孫は周りで遊んでいます。取りあえず洗車が終わってお茶を飲んで一息入れ、乾いたかどうか見に行こうと庭に出た葉っぱを浸して、車のボディに貼っているわけです。

「笑」せっかくなので洗ったところにベタベタとびっくりしてしまっていますね。しかも棒切れで泥をすくって、枝みたいなを描いているわけですよ。こちらにしてみたら、せっかくなので洗った葉っぱに「何やってるの!」と大きな声で叱ったんです。もうしたら孫が何と言ったと思いますか? 「今、『表現』しています!」と言うのです。

藤木 これは参ったな。(笑)

増山 参りました。どこで「表現」なんていう言葉を使ったのだろうと。でも確かに

遊びという名の「遊ばされ」、居場所という名の「居させられ場所」

藤木 先生には「曹洞禅グラフ」でも連載をお願いしています。その中で、子どもたちのテリトリーが、実は大人たちによる「居させられ場所」だという内容がございました(148巻号)。

増山 今子どもの居場所と言われているところは、往々にして大人が目を光らせていて、段取りを付けて学ばせたり楽

今こそお寺は地域と連携して子どもたちの居場所づくりを

聞き手 藤木隆宣



「遊ばされ」、居場所という名の「居させられ場所」が増えていると思います。保育園とか学校はきちんとスケジュールが決まっています。動き方も関わり方も決まっています。そうではなくて、雑然として

だから、遊びという名の「遊ばされ」、居場所という名の「居させられ場所」が増えていると思います。保育園とか学校はきちんとスケジュールが決まっています。動き方も関わり方も決まっています。そうではなくて、雑然として

いって、生活の中の混沌とした部分が消えていきました。藤木 混沌とした場所が必要ですね。

増山 はい。それがなくて、全部線を引いて分けていくというのは、子どもの育ちにとってにはマイナスです。人間は、人間性やお寺さんがあるんじゃないでしょうか。

藤木 そうですね。これからのお寺は寺檀関係に固定した

子どもの育ちにとつての自由空間がせめられていく。果たしてそれがいいのかどうかというのを問いきななければいけないのではないのでしょうか。

お寺は昔もこれからも子どもの居場所です

藤木 子どもの頃、家に帰るとかばんを置いて、神社なりお寺のたまり場に行つて、友達と遊んで、それが楽しくて楽しくてしょうがなかったです。

増山 本当ですね。季節季節にいろいろな遊びがあつて。私が育つたころもそうですが、子どもの遊び場、たまり場、居場所の最大ものは神社でありお寺の境内だったわけですね。それを考えると、お寺さんというのは地域にとつては子どもの居場所といえますか、子どものたまり場になり得る場所だと思つていいと思います。

す。藤木 ぜひその辺を、お寺は創造していきたいものです。増山 特に一九七〇年代に、いろいろな親子の取り組みが起りました。例えば子ども文庫をやる場所がないわけです。もちろん公共の公民館等の一角を利用していたところはあるんですが、なかなか行政的に対応するというのはうまくいきませんでした。小回りが利かないのです。

そういうことを考えますと、地域のお寺さんが子ども文庫の取り組みには親が協力するといことも可能です。あるいは映画を上映したり演劇や大道芸や和太鼓をやつたりと、いろいろなことをやつていらっしゃる方が、実際にいっばいいますから、子どもの芸術文化活動の場所として、お寺を活用して戴く方法もあります。

また、子どもの遊び場づくりをされている方がいらつしやると、その遊び場づくりのために、自由に使える空間や大きな木が必要だとか、いろいろな課題があります。子どもに小屋を作つたりさせたいけれど、なかなか公園ではできません。一般の公園は、自治体が管理している空間です。孫は周りで遊んでいます。取りあえず洗車が終わってお茶を飲んで一息入れ、乾いたかどうか見に行こうと庭に出た葉っぱを浸して、車のボディに貼っているわけです。

に取組んでいるお寺さんも最近出てきています。子どもたちの取り組みやニーズに合わせて、地域の親たちの取り組みや、全国的なアイデアと結び付くと、お寺が拠点になつていろいろなことができていけると思います。

藤木 ぜひ、そういうところに着目して戴きたいと思えます。お寺は、住職や奥様が常に中心にならなければいけないということではなくて、地域の専門家や関心のある人たちがお寺を利用して、お寺としての広がりを持たせていく

増山 私が知っている取り組みの中で、「ファンタジー遊び」というのをやっている人たちがいます。例えば街中で子どもが「わらしべ長者遊び」をやります。軒の店に、最初はトイレットペーパー一つを持って行って、「これと何か取り替えてくれますか?」と言うと、そのお店の方が、「じゃあこのボールペンでいい?」と言って取り替えてくれます。今度はそのボールペンを持って隣に行つて、そこでまた違うものに取り替えてもらうというように、ずっと地域の店や家歩いていくのです。この遊びは地域の大人の理解がなければできませんが、公園がなくとも、広い場所がなくとも、町そのものが遊びのフィールドになるわけです。広い場所をつくらば遊びが成り立つのではなくて、子ども自身がストーリーを作つて、ファンタジーを遊ぶということなんです。そう考

編集後記

令和元年七月十五日(月)のNHKニュースウオッチナインの後の番組「事件の涙」...

藤木隆宣



さて、私の長年の念願であった小庵『日庭寺』の落慶ウイーク予定表を掲載させて...



日庭寺本堂

ないので、読者各位のご支援を切にお願い申し上げます。...

日庭寺落慶ウイーク予定表

Table with 2 columns: 日付 (Date) and 内容・時間 (Content/Time). Includes dates from 2019/11/9 to 2019/1/26 and various activities like lectures and workshops.

手まり学園

寄附者御芳名 R1.5.2~R1.7.31

Table with 3 columns: 所在地 (Location), 寺院名(個人名) (Temple Name/Individual Name), 金額 (Amount). Lists donations from Kanagawa Prefecture.

手まり学園にご支援をお願いいたします



手まり学園キャンプ (このまさわキャンプ場)

仏教企画発行の刊行物 (*部数により割引があります) すべて税別価格です

- List of publications with prices: 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円★, 『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二・西館好子共著 1,200円★, etc.

*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

『修証義』解説 道元禅師に学ぶ人間の道

丸山劫外 著

発行所: 仏教企画 発売元: 佼成出版社 定価: 本体1400円+税



総序—仏法に出会えた幸せ 懺悔滅罪—広々とした仏の御前に 受戒入位—仏の灯りに照らされて 発願利生—ともに手をたずさえて 行持報恩—あなたもやがて仏に

おもとめは下記お申込先までご連絡ください

お申込み

〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5 TEL: 042-703-8641 FAX: 042-783-0989 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客様番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号でも可能です。